

2023年3月期第1四半期 決算説明資料

2022年8月10日
白銅株式会社

目次

- | | | |
|---------------------|------|-----|
| 1. 2023年3月期第1四半期 | 決算内容 | P 2 |
| 2. 2023年3月期 | 業績予想 | P16 |
| 3. 中期経営計画達成へ向けた取り組み | | P20 |

2023年3月期第1四半期 決算内容

決算ハイライト

売上高

16,062百万円
(前年同四半期比+ 27.1 %)

売上総利益

2,801百万円
(前年同四半期比+ 18.1 %)

経常利益

1,272百万円
(前年同四半期比+ 23.5 %)

2023年3月期第1四半期サマリー

- 半導体製造装置業界は、IoTやDX、AIの推進などによる半導体需要を背景に拡大が継続
- 前年同四半期比で大幅な伸張、前期に続き四半期ベースで最高値を更新。
- 主力のアルミニウムを中心に全品種の販売が前年同四半期比で増加
- 上海白銅精密材料有限公司は約2ヶ月続いた中国上海市の都市封鎖（ロックダウン）の影響を受け前年同四半期比減収減益も、旺盛な半導体需要を中心に国内売上高が全体をけん引

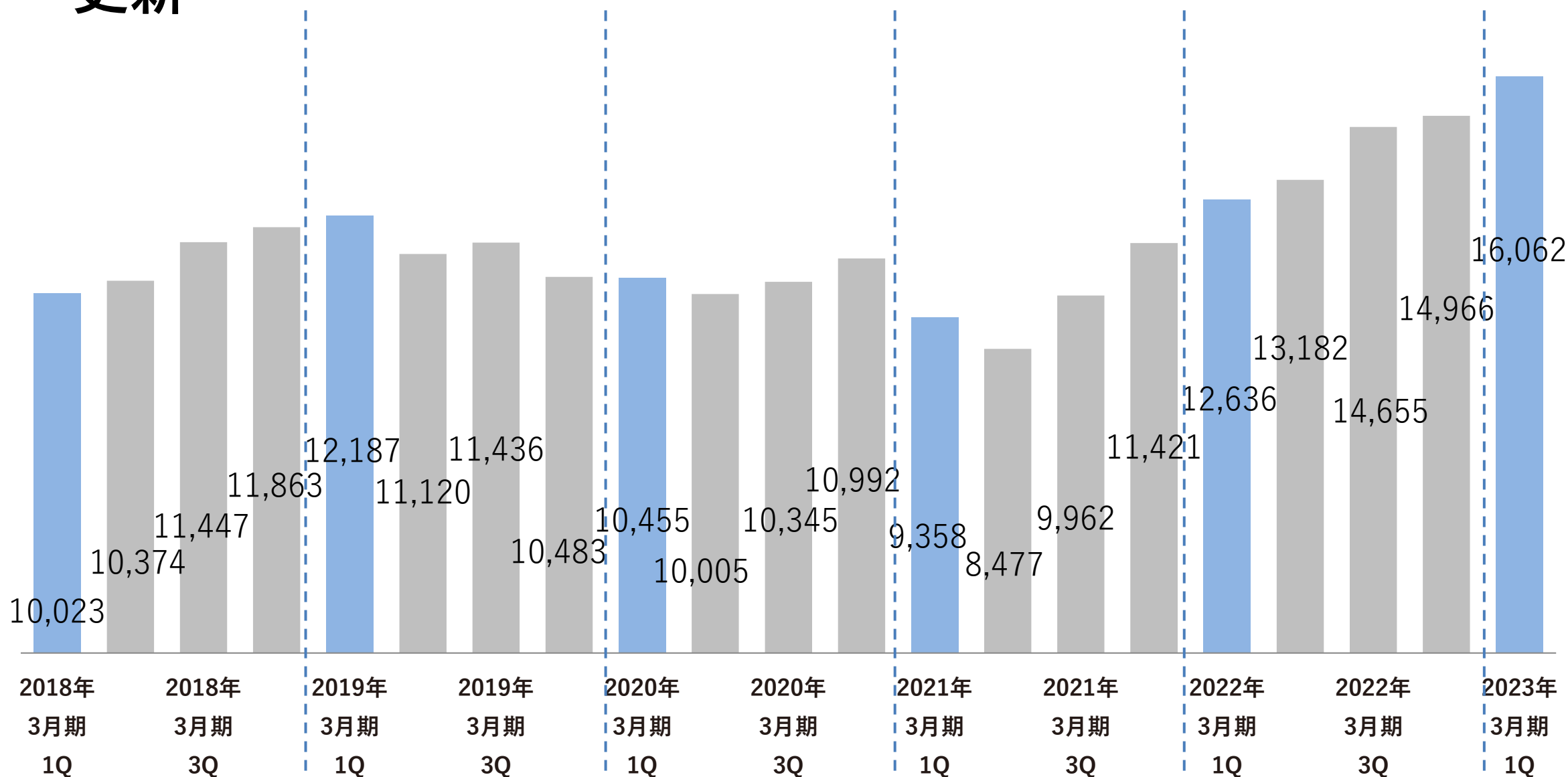
連結損益計算書（PL）サマリー

(百万円)	2022/3期 1Q	売上高比	2023/3期 1Q	売上高比	前年同四半期 増減率 (差額)
売上高	12,636	-	16,062	-	27.1%
標準在庫品	8,084	64.0%	9,980	62.1%	23.5%
特注品	4,551	36.0%	6,082	37.9%	33.6%
売上総利益	2,372	18.8%	2,801	17.4%	18.1%
営業利益	989	7.8%	1,212	7.5%	22.5%
経常利益	1,030	8.2%	1,272	7.9%	23.5%
棚卸資産影響額（△は損）	104	0.8%	171	1.1%	+ 66
経常利益(棚卸資産影響前)	926	7.3%	1,101	6.9%	18.9%
親会社に帰属する 四半期純利益	717	5.7%	888	5.5%	23.8%

売上高の四半期毎推移

2021年3月期第2Qを底としてコロナウイルス感染症の影響から回復し、旺盛な需要等を背景に過去最高値を連続で更新

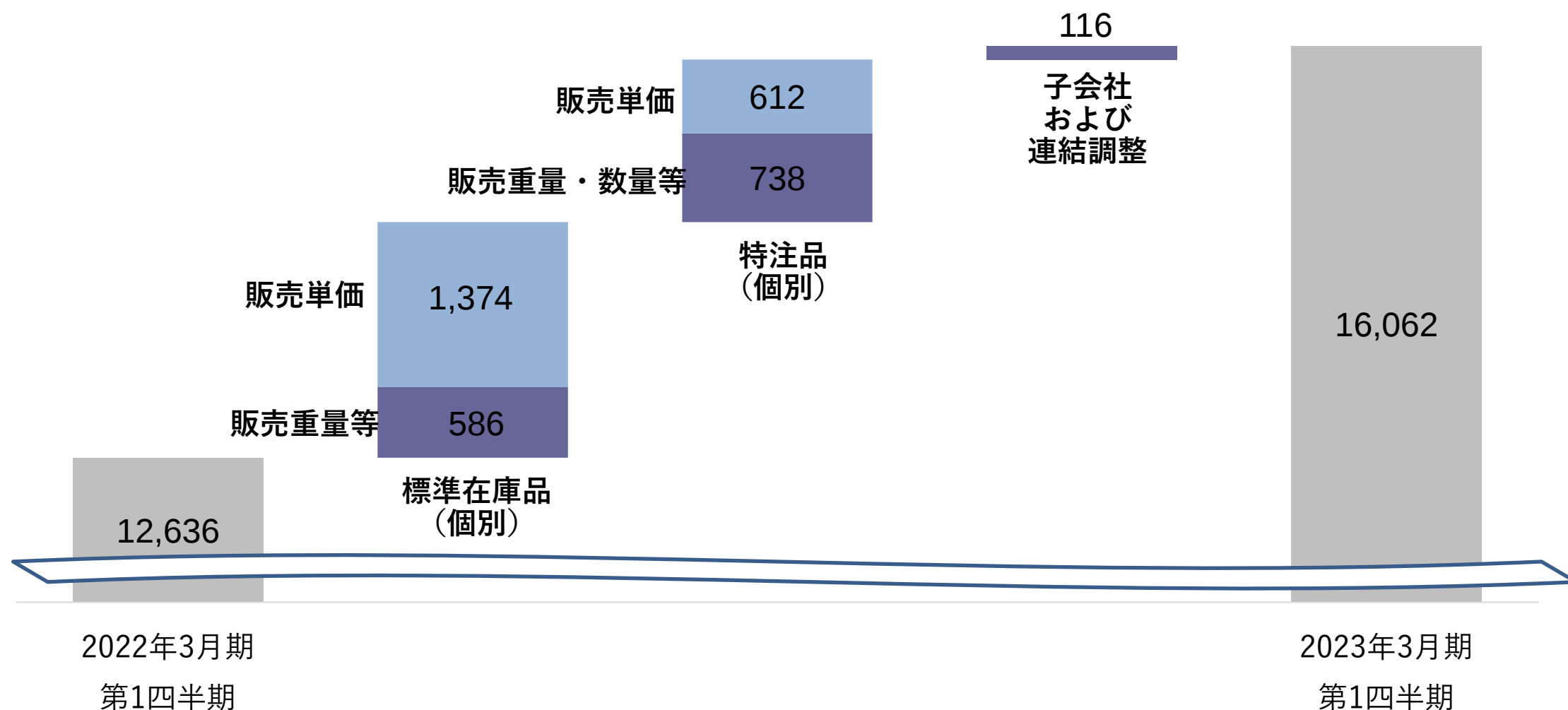
単位：百万円



売上高の前年同四半期差異要因

販売重量増加と販売単価上昇を主因に売上高が増加

(単位 百万円)

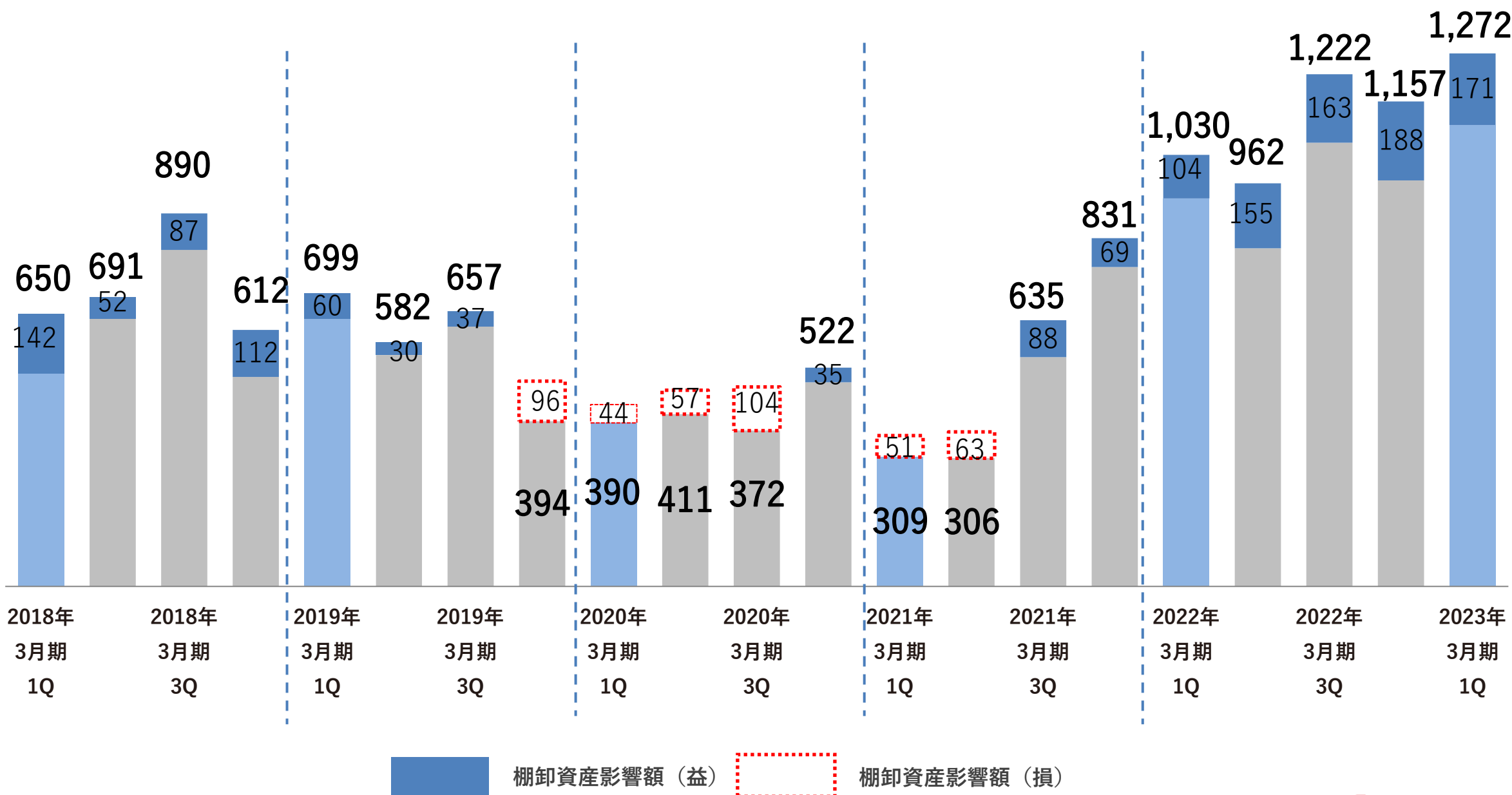


白銅個別標準在庫品前年同四半期比 販売重量 + 6.1% 販売単価 + 17.4%

経常利益の四半期毎推移

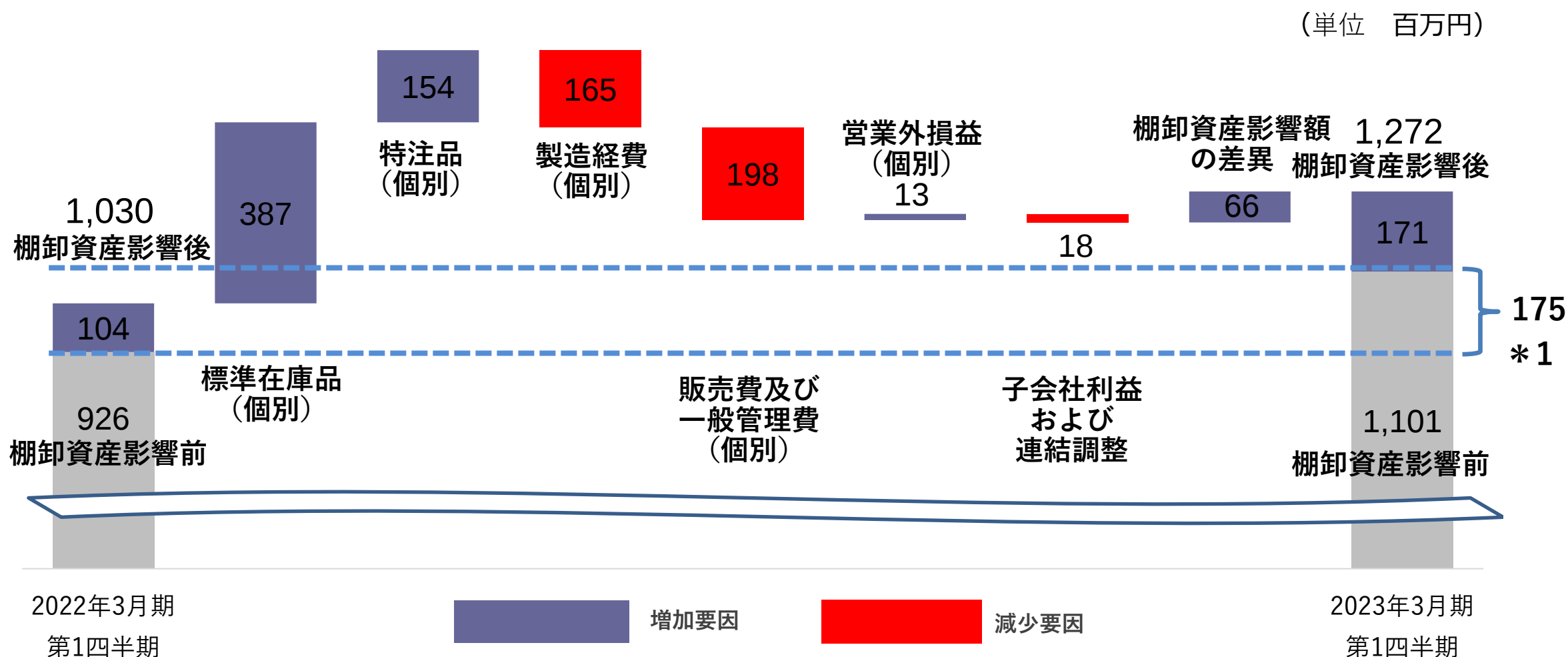
2021年3月期第3Q以降、経常利益水準は増加傾向
2023年3月期第1Qも売上高増加等により好調継続

単位：百万円



経常利益の前年同四半期差異要因

売上高の増加、及び、原材料市況の影響による棚卸資産影響額により増益

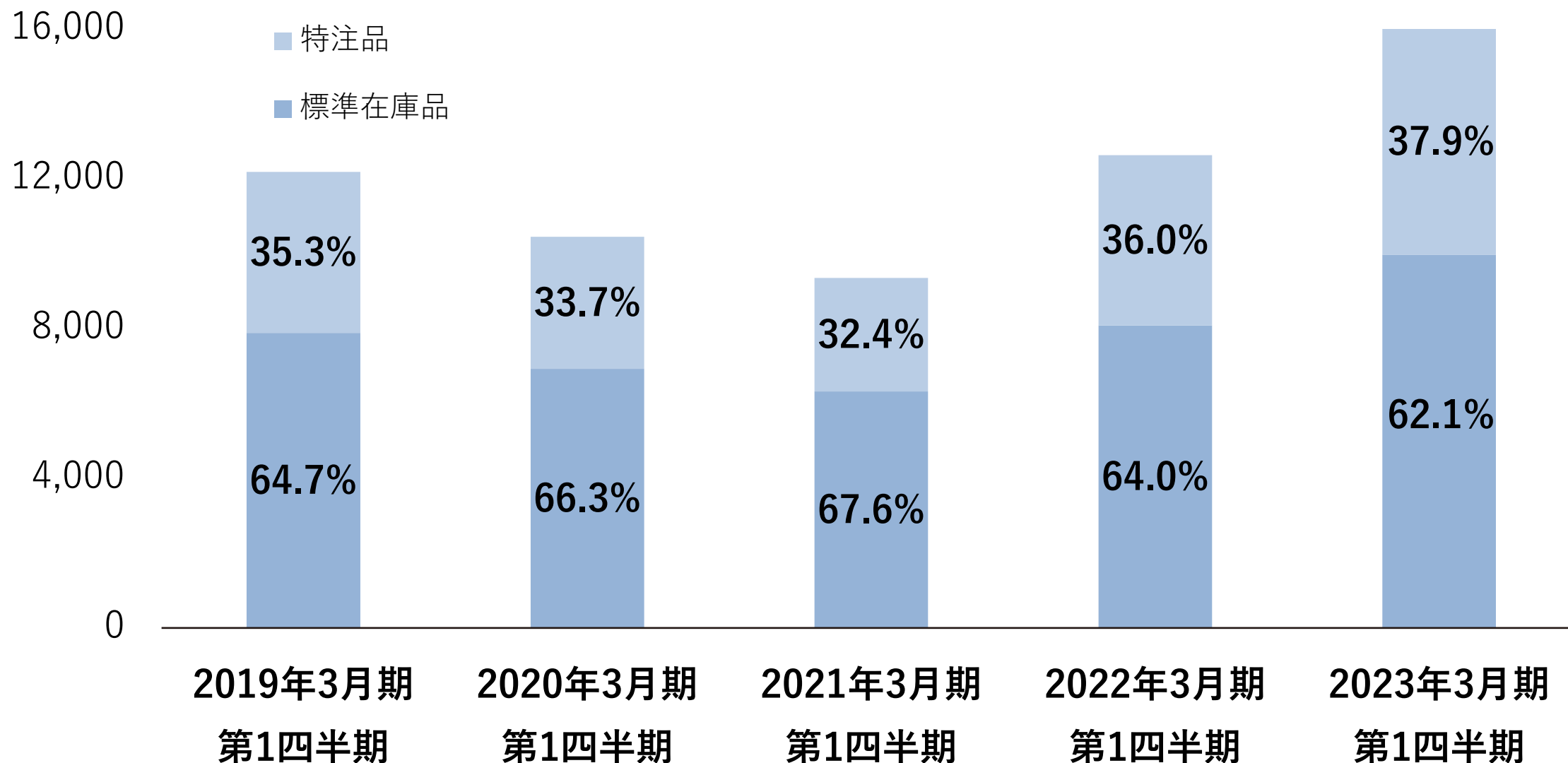


＊1 棚卸資産影響前経常利益の増減を示す

標準在庫品・特注品売上高の構成比率の推移

前年同四半期と比較して、主に半導体製造装置関連向けの需要増により特注品の比率が増加

(単位：百万円)



品種別売上高

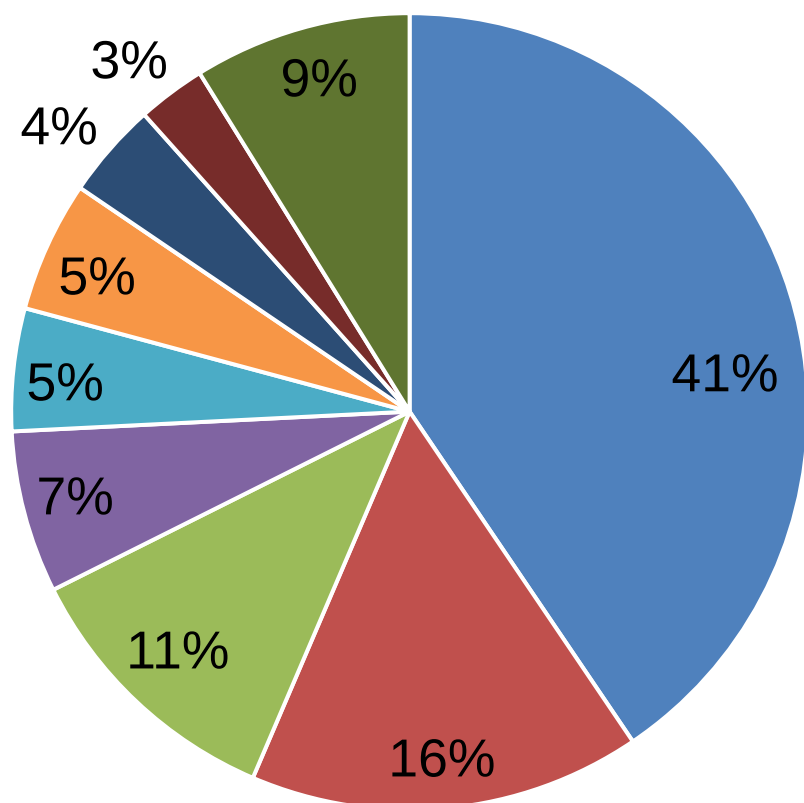
主力のアルミニウムを中心に全ての製品で前連結会計年度比増加

(百万円)	2022/3期 1Q	2022/3期 2Q	2022/3期 3Q	2022/3期 4Q	2023/3期 1Q	対前年同四半期 増減率
連結売上高	12,636	13,182	14,655	14,967	16,062	+27.1%
アルミニウム	8,242	8,654	9,563	9,905	10,694	+29.8%
伸銅	1,780	1,766	2,033	1,919	2,106	+18.3%
ステンレス	1,991	2,116	2,301	2,385	2,565	+28.8%
その他	621	645	756	756	696	+12.0%

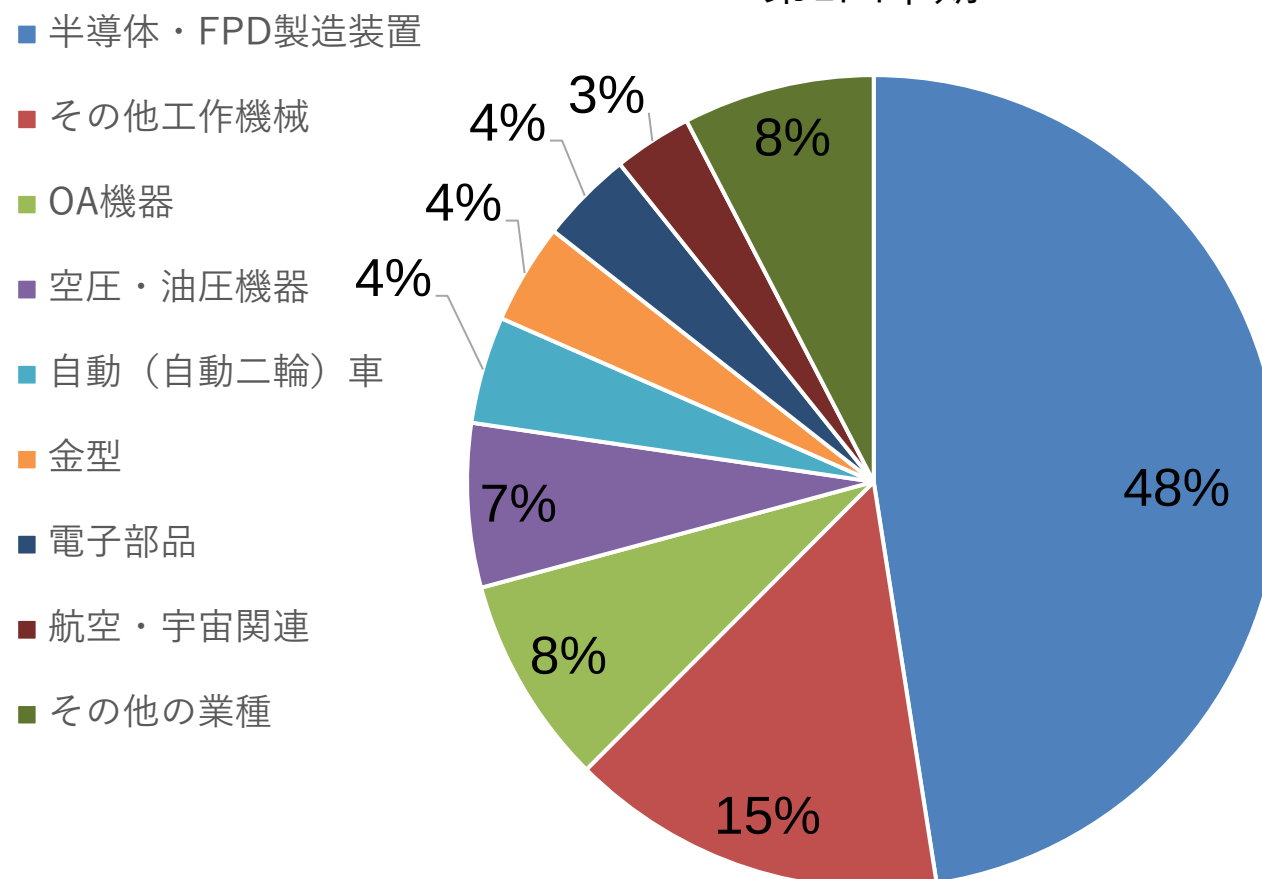
業種別売上高構成比率の推移（国内）

前年同四半期比で半導体・FPD製造装置向けの比率が増加し、
売上高拡大に寄与

2022年3月期
第1四半期



2023年3月期
第1四半期



貸借対照表 (BS)

< 貸借対照表(前連結会計年度末比) >

単位：百万円

資産の部	2022年3月末	2022年6月末	増減
流動資産	33,615	35,344	1,729
現金及び預金	8,674	7,802	△872
受取手形及び売掛 (含 電子記録債権)	17,010	18,603	1,592
棚卸資産	7,802	8,806	1,004
その他流動資産	127	132	4
固定資産	8,164	8,196	31
有形固定資産	6,097	6,083	△14
無形固定資産	509	514	5
投資その他の資産	1,557	1,597	39
資産合計	41,780	43,540	1,760
負債及び純資産の部	2022年3月末	2022年6月末	増減
流動負債	21,903	23,390	1,486
支払手形及び買掛 (含 電子記録債務)	18,652	20,383	1,730
未払金・未払費用	1,023	1,910	886
未払法人税等	1,145	416	△728
その他流動負債	1,081	680	△400
固定負債	48	59	11
負債合計	21,951	23,449	1,498
純資産	19,829	20,091	261
負債純資産合計	41,780	43,540	1,760

前連結会計年度増減

流動資産+1,729百万円

- 売上高増加による受取手形及び売掛金の増加
- 販売量増加に伴う棚卸資産の増加

固定資産+31百万円

- 有形固定資産の減少（減価償却による）
- 無形固定資産の増加
- 投資その他の資産の増加

流動負債+1,486百万円

- 仕入増加による支払手形及び買掛金の増加
- 法人税支払いによる未払法人税等の減少

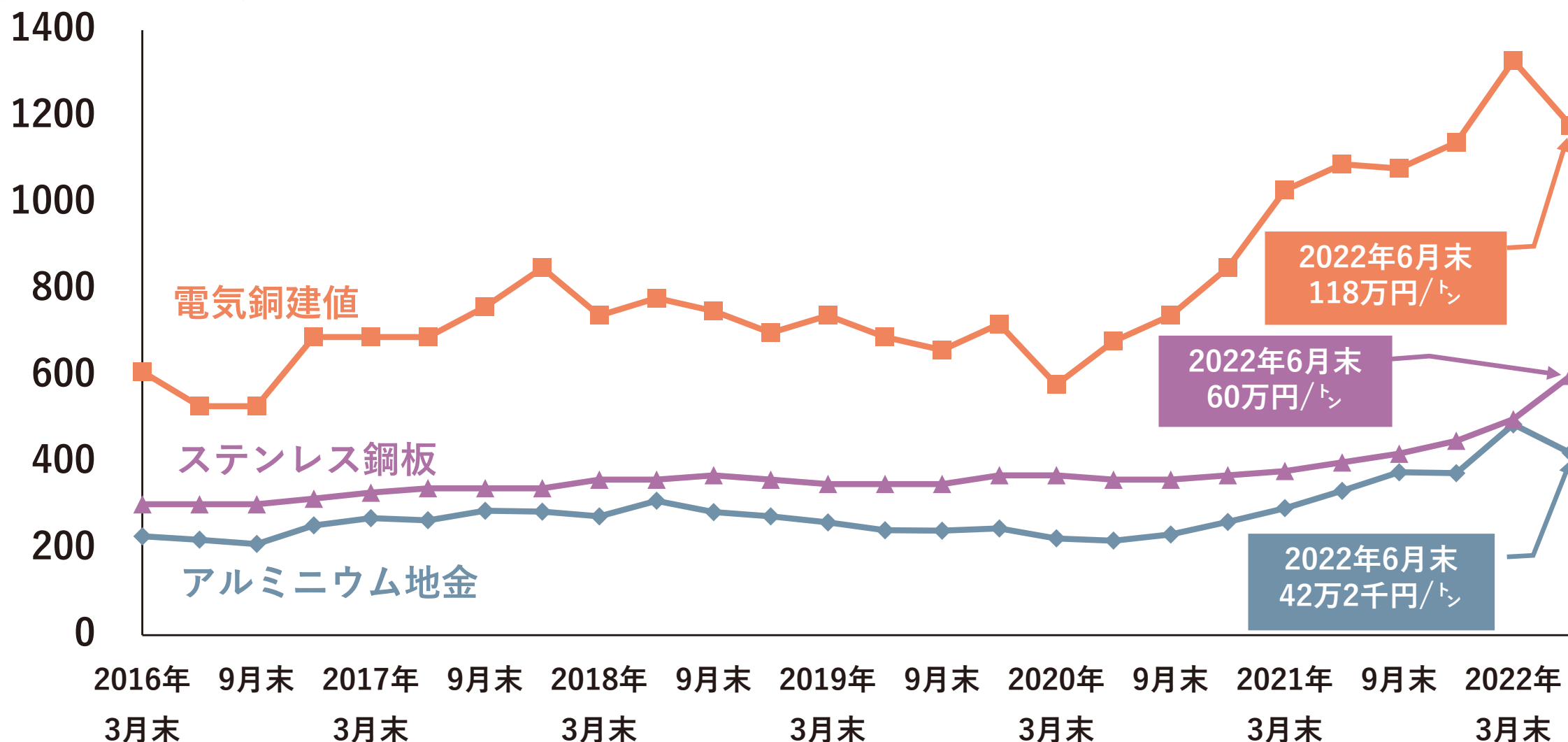
固定負債+11百万円

純資産+261百万円

事業環境（１） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

上昇を継続していたアルミニウム・伸銅の原材料価格は2022年6月以降下落の動きが見られた

(単位：千円／トン)

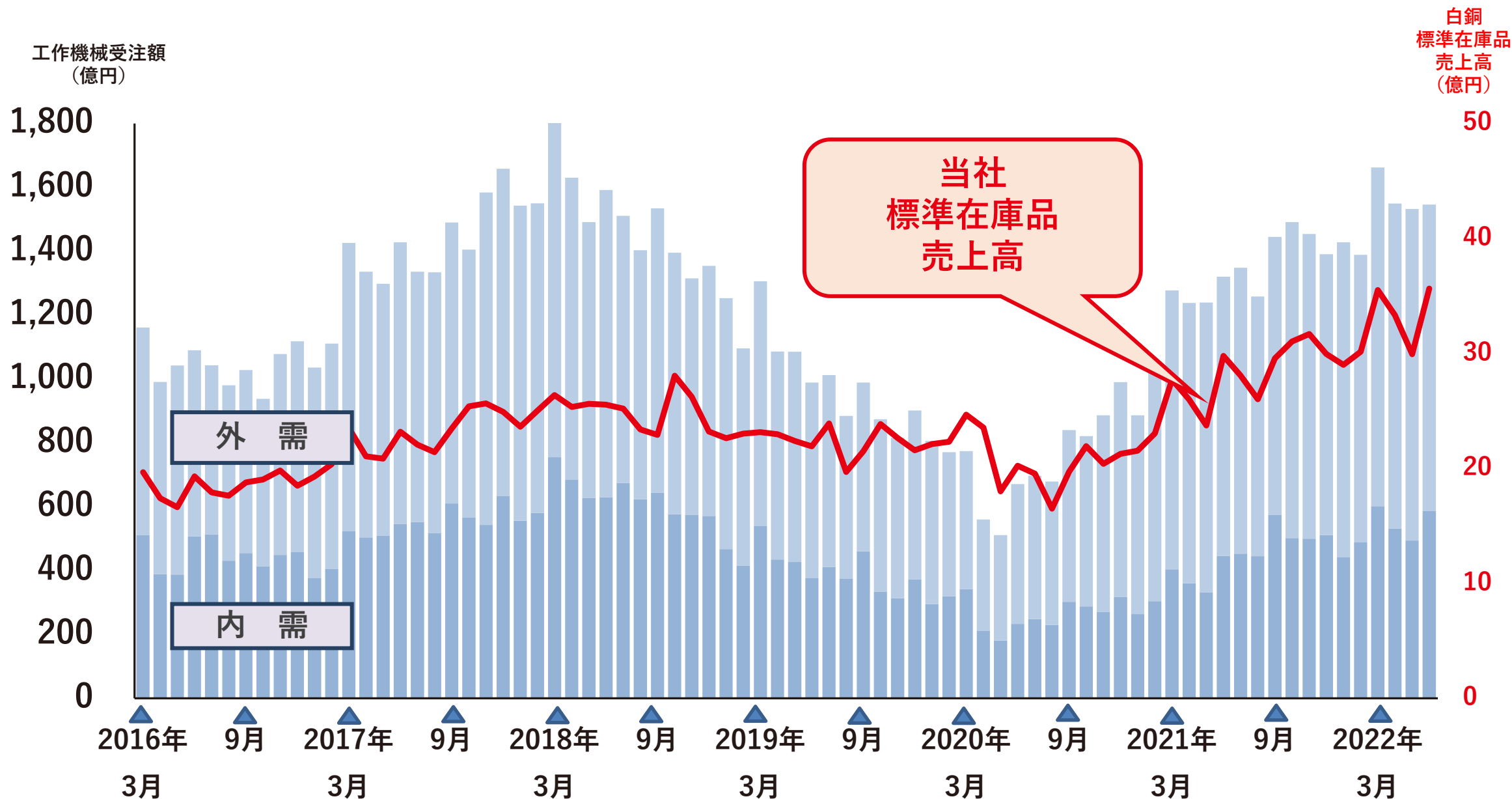


ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値
アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

2022 © Hakudo Co., Ltd. All rights reserved.

事業環境（２） 工作機械受注額と標準在庫品売上高との比較

工作機械受注額は外需を中心に引き続き回復傾向

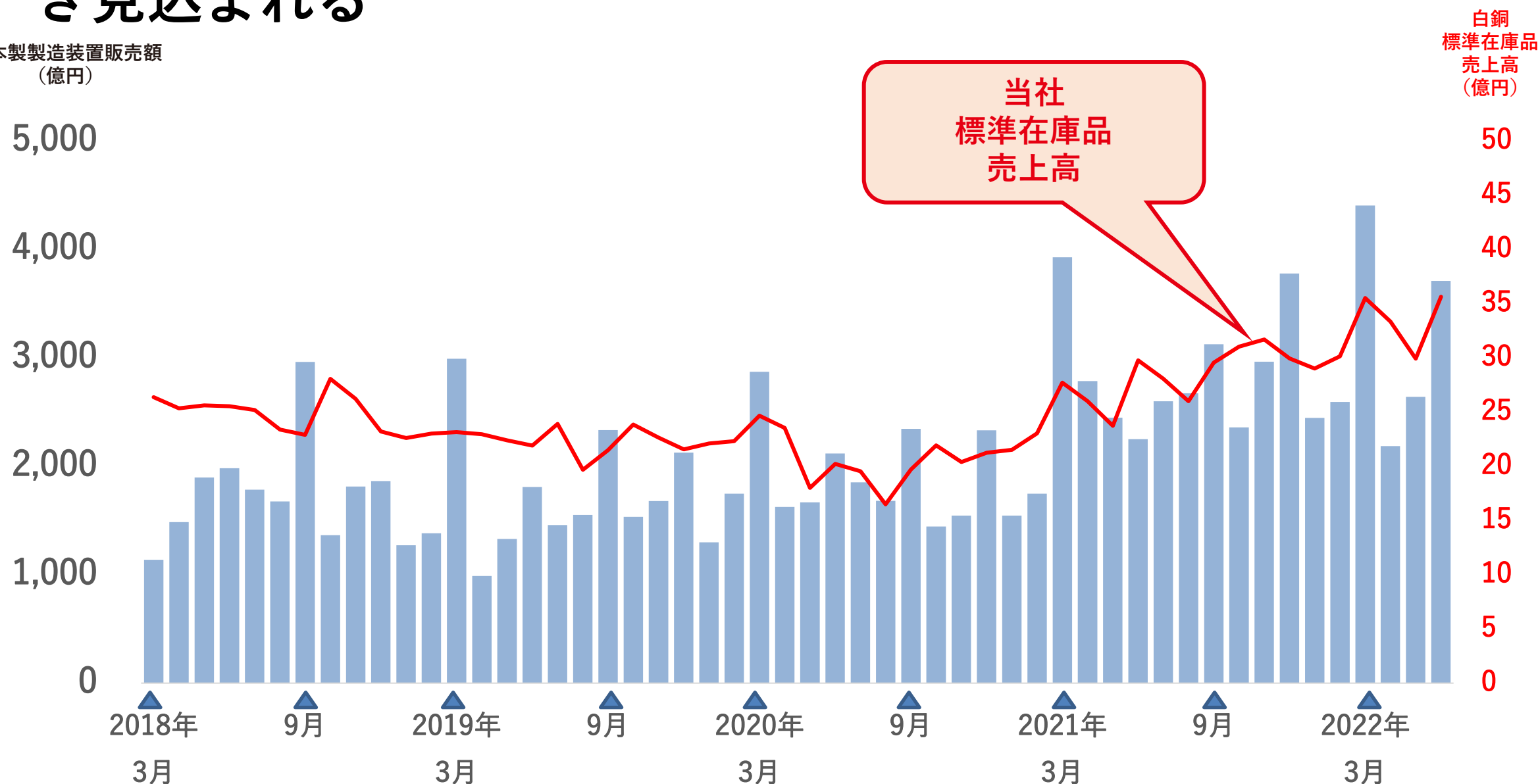


出典：日本工作機械販売協会 工作機械受注統計

事業環境（3） 半導体製造装置販売額と標準在庫品売上高との比較

5G関連やデータセンター向けの需要拡大継続が引き続き見込まれる

日本製製造装置販売額
(億円)



出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

2023年3月期 業績予想

2023年3月期 第2四半期累計（半期）連結業績予想

第1四半期時点での進捗率は良好なるも、足元の不透明な世界情勢等の影響を勘案し、現時点で業績予想の修正無し

(百万円)	2022/3期 第2四半期 実績	売上高比	2023/3期 第2四半期 予想	売上高比	対前年 同四半期 増減率 (差額)	半期予想に 対する 第1四半期 進捗率
売上高	25,818	-	30,700	-	18.9%	52.3%
営業利益	1,940	7.5%	1,970	6.4%	1.5%	61.5%
経常利益	1,993	7.7%	2,040	6.6%	2.3%	62.4%
棚卸資産影響額（△は損）	259	1.0%	171	0.6%	△88	—
経常利益(棚卸資産影響前)	1,734	6.8%	1,869	6.1%	7.8%	58.9%
親会社に帰属する 四半期純利益	1,355	5.2%	1,430	4.6%	5.5%	62.1%

2023年3月期 通期連結業績予想

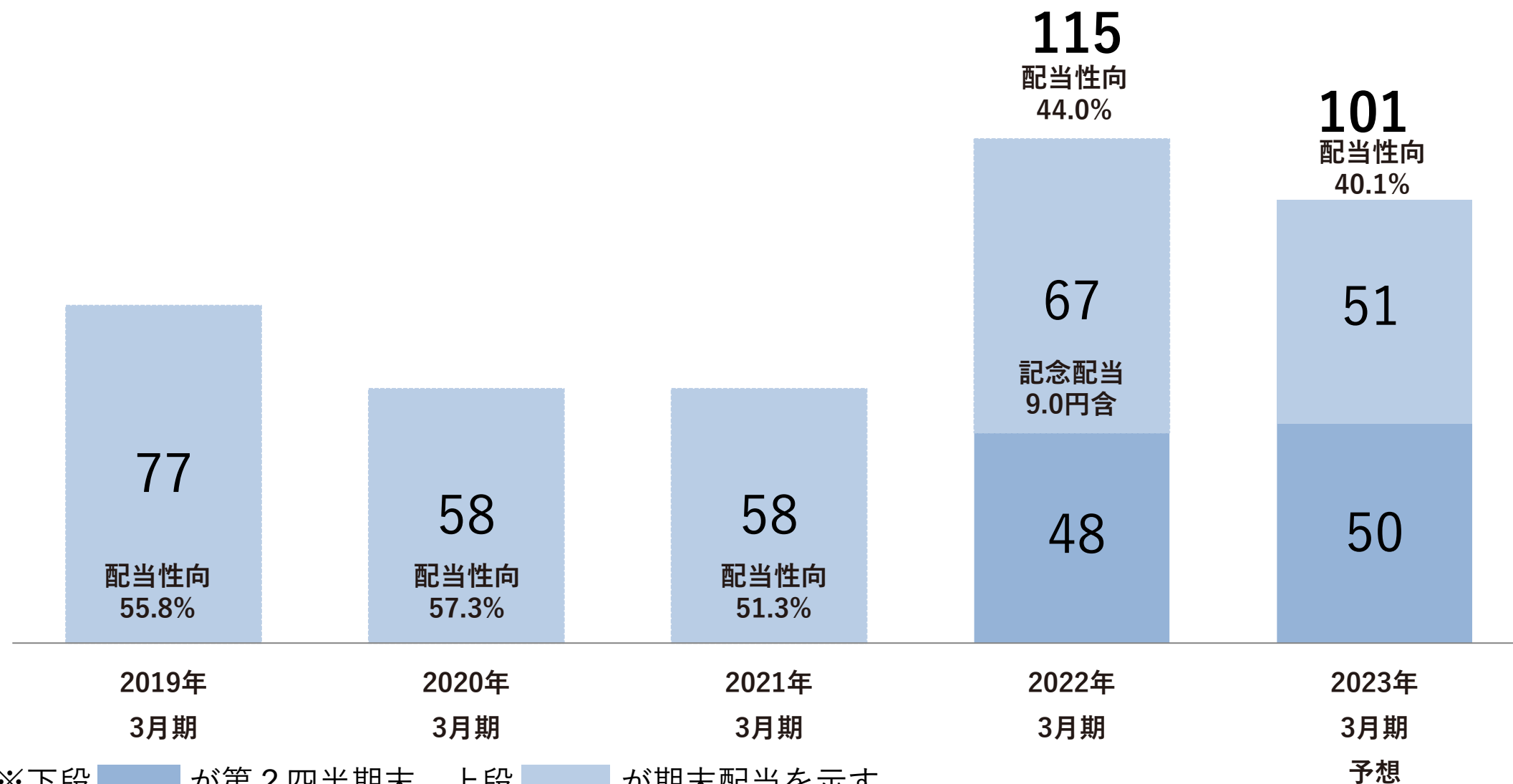
通期においても進捗率は良好だが、第2四半期累計予想と同理由で、現時点での業績予想の修正無し

(百万円)	2022/3期 実績	売上高比	2023/3期 通期予想	売上高比	対連結 会計年度 増減率 (差額)	通期予想に 対する 第1四半期 進捗率	通期予想に 対する 半期予想の 比率
売上高	55,441	-	62,100	-	12.0%	25.9%	49.4%
営業利益	4,256	7.7%	3,970	6.4%	△6.7%	30.5%	49.6%
経常利益	4,373	7.9%	4,080	6.6%	△6.7%	31.2%	50.0%
棚卸資産影響額 (△は損)	610	1.1%	171	0.3%	△439	—	—
経常利益 (棚卸資産影響前)	3,763	6.8%	3,909	6.3%	+3.9%	28.2%	47.8%
親会社に帰属する 当期純利益	2,964	5.3%	2,860	4.6%	△3.5%	31.0%	50.0%

配当予想～1株当たり配当金の推移～

期初発表予想から修正無し

(単位 : 円)



中期経営計画達成へ向けた取り組み

中期経営計画の経営目標・重要財務計画指標・株主還元の目指す水準

(22/5/26開示の中期経営計画より抜粋)

経営目標である売上高・経常利益の成長とともに、
重要財務計画指標であるROICや営業CFの目標達成と株主還元を目指します

	2021年度実績※			2024年度目標
経営目標	売上高	554 億円	➡	718 億円
	経常利益	43 億円	➡	54 億円
重要財務計画指標	ROIC	15 %	➡	15 %
	営業CF	45 億円	➡	47 億円
株主還元	配当性向	44.0 % (記念配当3.4%を含む)		40.0 %

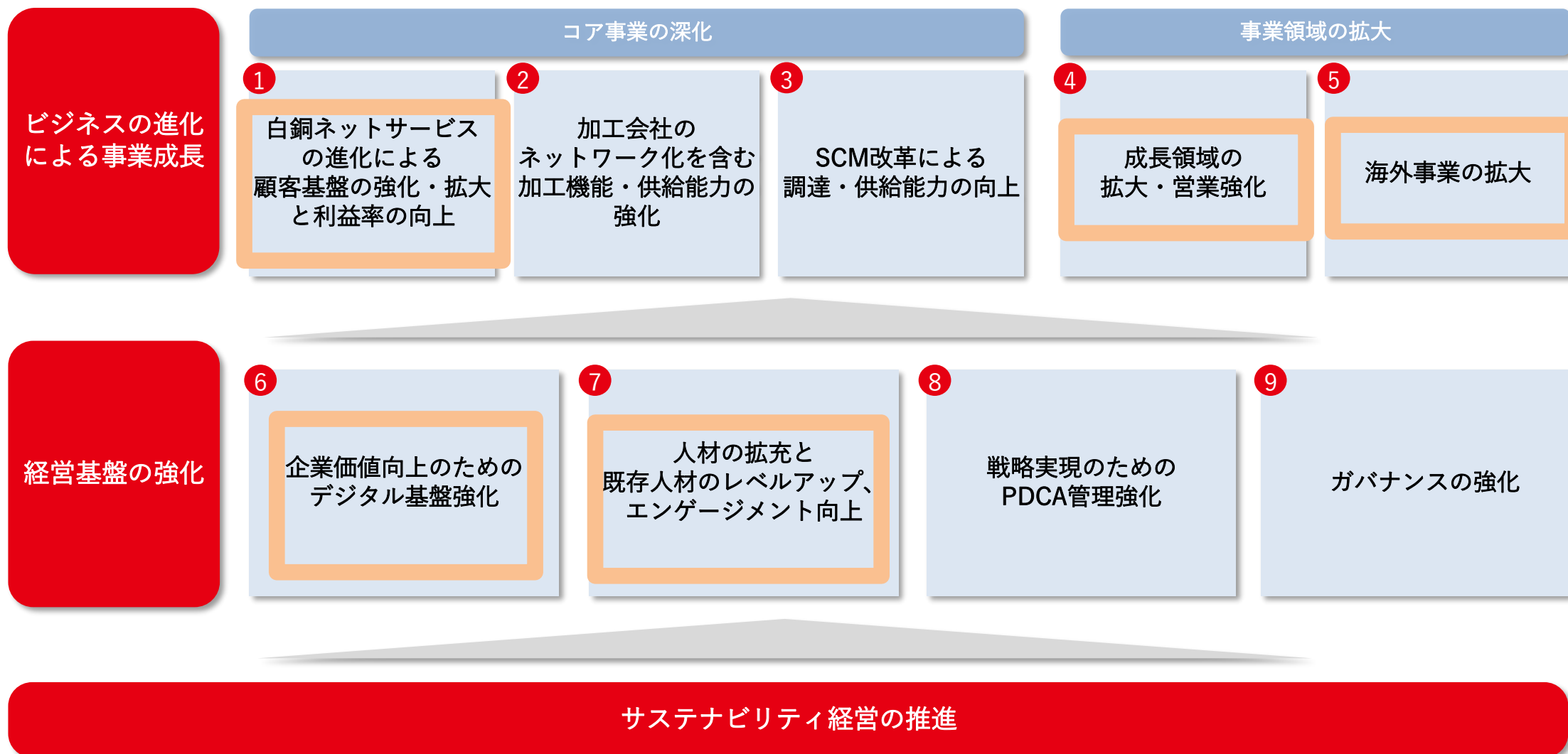
*詳細は22/5/26開示の「中期経営計画」をご参照ください

中期経営計画の重点戦略方針

(22/5/26開示の中期経営計画より抜粋)

ダントツ戦略をベースに、2024年度までにビジネス進化と経営基盤の強化を図ります

経営課題と重点戦略方針



*詳細は22/5/26開示の「中期経営計画」をご参照ください

重点戦略方針(1)

(1) 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上

- ・ 品目サイズを大幅拡充し、33,700品目サイズ(6月末時点)がご利用可能
- ・ 工具、ネジ等材料以外の取り扱いも大幅に増加中
- ・ 流通業者向けネットサービスを展開中



当社標準在庫品約5,400点＋提携仕入先
在庫品約28,300点、合計約33,700点が
24時間365日お見積り・ご注文可能



在庫状況、お届け日、注文状況、
宅配便利用の場合は送り状番号
が確認可能

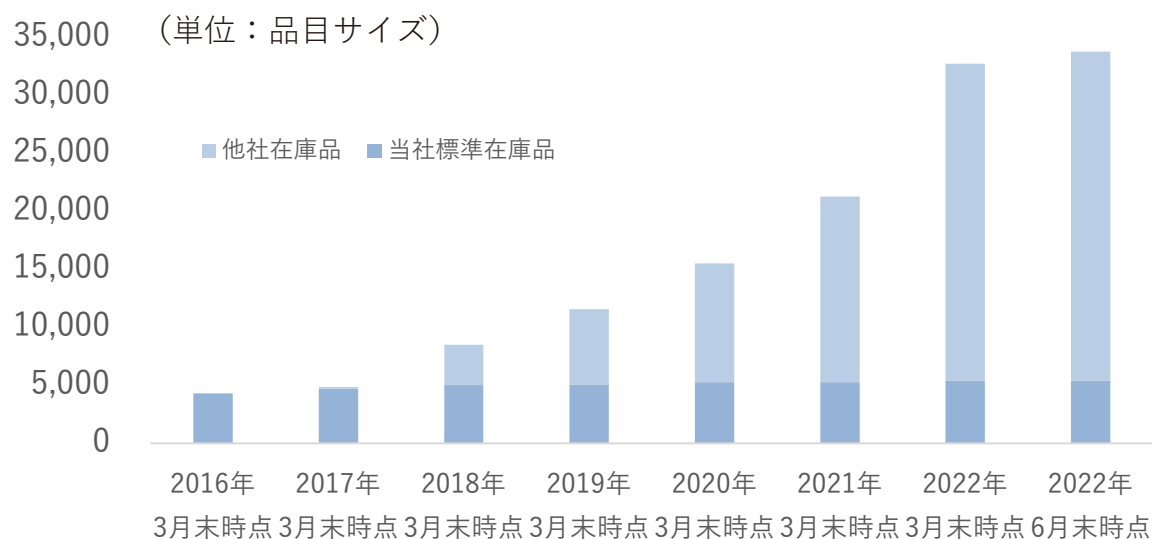


請求書、納品書はもちろん、
ミルシート(検査成績表)も発
行可能

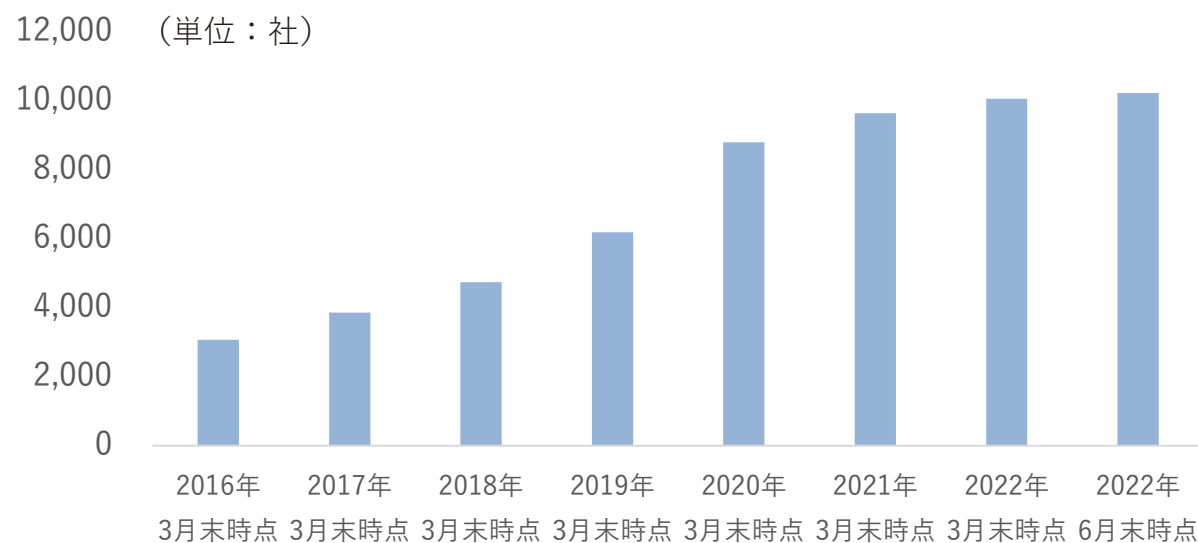


工具、副資材等、材料以外の取り
扱いを増加、約13,000アイテムが
ご利用可能

【白銅ネットサービス ご利用可能アイテム数】



【白銅ネットサービスご利用登録社数推移 (累計)】



重点戦略方針(2)

(2) 成長領域の拡大・営業強化

(2)-1 航空・宇宙領域の拡大

～航空宇宙規格材料のコンビニエンスディーラーを目指す～

- ・ 2台目のウォータージェット加工機を導入予定
- ・ 商品ラインナップも増加中

業界最大級の
豊富な在庫ラインアップ

航空機の構造材、各種の装備品
や人工衛星部品などに使用され
る材料を豊富なサイズラインアッ
プで品揃え

規格に合致した品質確保

神奈川工場・滋賀工場で取得済
みのJIS Q 9100(航空宇宙)の
全社への拡大審査に合格
(正式認証は8月末予定)

海外からの輸入にも対応

海外との幅広い調達ネットワー
クを使って、輸入にも迅速に対
応いたします。

(2)-2 自動車領域の拡大

～3Dプリンターによる金属製品の受託製造～

- ・ アルミダイカスト合金「ADC12」の造形サービスの販売強化
- ・ 3D造形に関するトータルソリューション「3D+ONE」
- ・ 検査設備増強による検査体制の強化
- ・ 3Dプリンターの相乗効果を狙った金型・自動車業界への拡販



画像提供：3D Systems Corporation

あたらしい、を、素材から。



重点戦略方針(3)

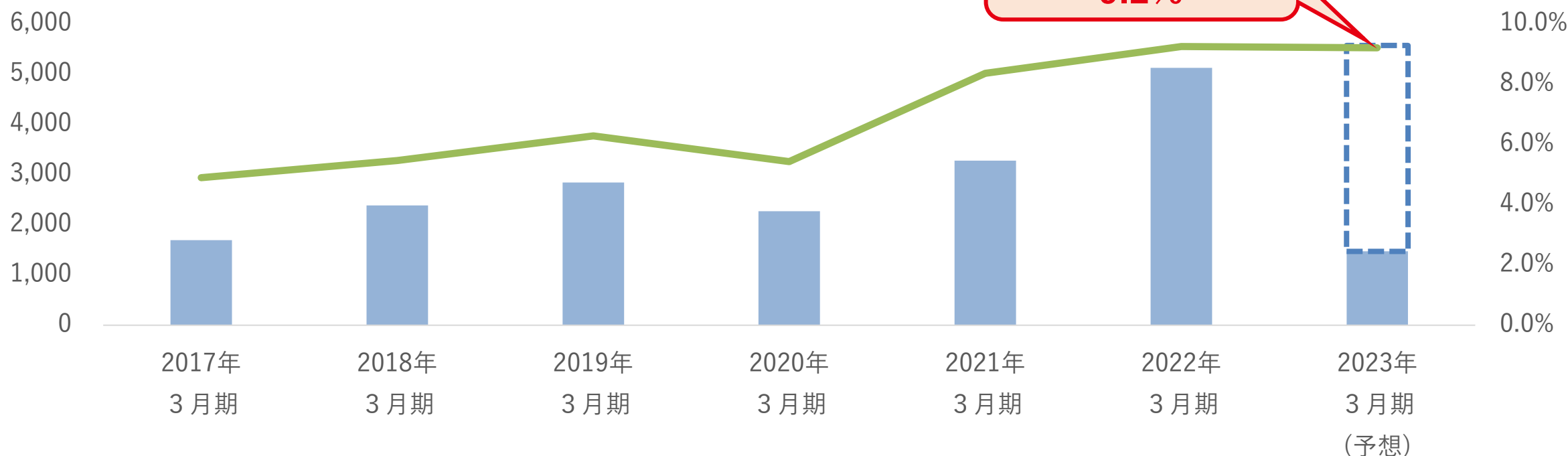
(3) 海外事業の拡大

- ◆ 上海白銅精密材料有限公司はロックダウンの影響を受け前年同四半期比売上高減少も、ベトナム向けが好調
- ◆ 2020年6月に出資を完了したベトナム大手非鉄金属商社であるオリスター社との協業体制の構築中（ECの導入等）
- ◆ 海外での非鉄・ステンレスのオーダーメイドプレート販売網の確立
- ◆ 海外代理店との連携強化と新規進出国（米国・韓国等）の検討を開始し、一部交渉中
- ◆ 海外でのWeb販売の強化を目指しECパッケージソフトを開発中（2022年9月完成予定）

2025年3月期には白銅グループ全体に占める海外事業の売上高12%を目指す

【海外事業の売上高と海外売上高比率の推移】

（単位 百万円）



※日本から海外子会社以外への輸出売上高と海外子会社の売上高の合計金額

重点戦略方針(4) (5)

経営基盤の強化として具体的な取組みを実施中

重点戦略方針	基盤構築施策(計画)	2023年第1四半期の具体的な取組み
経営基盤の強化 (4) 企業価値向上のためのデジタル基盤強化	新たなデジタル技術導入による業務プロセスの改革	「DX推進プロジェクト」を発足し、全社を挙げて業務のデジタル化に取り組む
	AI導入による対顧客対応業務等の強化	システム等による対顧客対応業務等の効率化を着手
	ペーパーレスによる業務効率化	電子保存等への対応などに着手
	社内間接事務・製造現場業務のRPA・IoT活用による効率化	IoT推進による製造現場の改革を継続
(5) 人材の拡充と既存人材のレベルアップ、エンゲージメント向上	戦略遂行に必要な人材の拡充とレベルアップ	海外業務経験者を中途採用し、海外営業部を新規に設置
	人材スキルマップの導入による必要人材要件の明確化	各部署で人材スキルマップを作成し、必要人材を明確化
	連動した教育制度の拡充による人材のレベルアップ	全社員を対象に教育制度を拡充
	人事部署設置による人材育成の強化	管理部の総務課人事グループを人事課とし、機能向上に着手
	従業員満足度の向上	働き方改革による従業員満足度の向上

サステナビリティ経営の推進

ESG/SDGs経営委員会を設置、各分科会でマテリアリティに対する取り組み実施中

マテリアリティ（重要課題）		具体的な取り組み	KPIの例	関連するSDGs目標
1. 環境負荷軽減・気候変動対応	事業上の環境負荷を軽減するとともに、環境に配慮した製品を通じて社会に貢献します	- CO₂排出の削減 - 資源の節約・枯渇抑制	✓ 出荷重量あたりのCO ₂ 排出量削減	     
2. 責任あるサプライチェーンの構築	サステナブルなサプライチェーンの構築に責任をもって取り組みます	- 環境配慮製品の強化 - グリーン調達の促進 - サプライヤーとの関係強化 - 人権の尊重	✓ ECO商品販売量目標 ✓ グリーン調達率	  
3. 社会への取り組み	パートナーシップの取組みを推進し、新しい価値の創造や地域社会への貢献を目指します	- 地域社会への貢献 - 産学協働	✓ 地域社会、団体への寄付実施 ✓ 産学協働検討案件数	  
4. 人材への投資	多様な人材が働きやすい組織を目指し、高い従業員満足度を実現します	- 従業員満足度の向上 - ダイバーシティの促進 - 健康で働きやすい環境の整備 - 社員教育の拡充	✓ 離職率 ✓ 女性管理職比率 ✓ 一人当たり教育投資額	    
5. コーポレート・ガバナンス	コンプライアンスやリスク管理を徹底し、円滑な事業運営に寄与します	- コンプライアンスの強化 - 情報セキュリティの強化 - リスク・危機管理の徹底	✓ リスク評価ポイント	   

■本資料における注意事項

この資料には、2022年8月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

■お問合せ先

白銅株式会社 経営企画課

メールアドレス：hkdkeiki@hakudo.co.jp

ホームページ www.hakudo.co.jp